

# 私立大学研究ブランディング事業 成果報告書

学校法人番号	141004	学校法人名	関東学院		
大学名	関東学院大学				
事業名	命を守り希望を繋ぐー新しい「防災・減災・復興学」の構築と研究拠点形成ー				
申請タイプ	タイプB	支援期間	5年	収容定員	10796人
参画組織	国際文化学部、社会学部、経済学部、経営学部、法学部、理工学部、建築・環境学部、人間共生学部、栄養学部、教育学部、看護学部、文学研究科、経済学研究科、法学研究科、工学研究科、看護学研究科、総合研究推進機構、防災・減災・復興学研究所				
事業概要	限られたストックや多様な価値観の下では、防災政策にも多様性・柔軟性が求められる。工学的解決のみならず、そこに人文社会的アプローチが融合してこそ、真に人や社会の幸福に繋がる防災・減災・復興が実現する。本事業では、防災・減災・復興学研究センターを設立し、総合大学の強みと校訓を生かした学際的研究を通じて新たな学術研究領域を提唱、かつ防災行政や復興支援に資する成果の発信により社会の持続的発展に貢献する。				
事業目的	<p>本事業では、命を守り希望を繋ぐことを目指した新しい「防災・減災・復興学」の構築・提唱を通して、関東学院大学が真に「人と社会の幸福に貢献し続ける大学」であることを社会に訴求し、大学ブランド及び研究ブランドを高めることを目的としている。</p> <p>東日本大震災の例を挙げるまでもなく、我が国では大規模な自然災害が頻発しており、今後も発生が懸念される巨大地震、津波、噴火、豪雨などに起因した大規模災害に対し、国民の生命や財産を守ることは喫緊の社会的課題である。</p> <p>被害の大きさも、被災の対象も、被害形態も多様化しているだけでなく、被災者の社会的、経済的背景も様々な中で、「防災」という概念は、単に身体的被害や物理的被害を防ぐというレベルを超え、社会損失、経済損失、精神的損失、人と地域の未来までも含めた損失を防ぐという目的で議論する必要がある。</p> <p>こうした人と社会の真の防災、真の減災、真の復興を実現するためには、技術・行政・財政といった分野だけでなく、行動社会学や計量心理学、幸福論や共生論といった分野における学術的基盤が必要である。そして、それらは全て別々に目的化されるものではなく、複合的、多面的見地による新しい防災・減災・復興の思想の下に展開されることがどうしても必要である。それはまさに新しい学問としての「防災・減災・復興学」を提唱することである。</p>				

# 私立大学研究ブランディング事業 成果報告書

<b>学校法人番号</b>	141004	<b>学校法人名</b>	関東学院
<b>大学名</b>	関東学院大学		
<b>事業名</b>	命を守り希望を繋ぐ－新しい「防災・減災・復興学」の構築と研究拠点形成－		
<b>事業成果</b>	<p>本学の「命を守り希望を繋ぐ－新しい「防災・減災・復興学」の構築と研究拠点形成－」事業（以下、本事業という。）は、2011年度に発足した防災・減災・復興に関する分野横断型プロジェクト研究を進展させ、「防災・減災・復興学」という新たな学術研究領域を提唱するとともに、防災行政や復興支援に資する研究成果の発信等により社会の持続的発展に貢献することを目的にスタートした。</p> <p>本学のブランディングに資するため、本事業を重点事業に位置づけ、学長のリーダーシップの下、研究活動のみならず、全学的に本事業を推進することにより自己点検及び外部評価を適切に行ってきた。また、ブランディング推進委員会を設置し、その下に、経営部門、研究部門、入試・広報部門、社会連携部門に至る部門横断的な「研究活動グループ」「ブランディング戦略グループ」を置き、役割の明確化及び学内における情報共有を図ってきた。</p> <p>研究活動の中心となる「防災・減災・復興学研究所」は、本事業を進める3年の間に、時限的なプロジェクト研究所から大学附置の研究機関に発展させ、事業の継続性を担保した。研究所にはURAを置き、防災技術、支援技術、災害対応・復興支援、公共政策・財政政策、社会行動学・計量心理学の観点から所員を選出し、総合大学の強みを活かした異分野融合研究を推進してきた。代表的なものを以下に示す。</p>		
	<b>【融合研究Aグループ】</b>		
	テーマ	被災者個々人のライフスタイルや死生観、経済力や社会との繋がり、地域の特性や経済力等これまで数量的な指標化が難しかった項目を、被災度評価や復興目標の判断材料とするモデルの検討	
	領域	地盤工学、認知心理学、社会心理学、都市社会学、施設立地の効率性、地方自治、実践神学	
研究内容	インフラ防災ではなく、キリスト教を建学の精神とする本学の校訓「人になれ 奉仕せよ」に基づき、心の復興、個人レベルの防災に焦点をあてている。各々の専門分野の観点から、北海道をはじめとする被災地域の自治体や協議会、個人等へのヒアリングを行い、今後のリスクコミュニケーションや行政対応、パーソナル・ネットワークの在り方等に係る有効な示唆を得た。文理融合により、社会の防災と復興の在り方に独自の体系を作り出し、学術面から地元神奈川県 の防災・減災へ寄与する研究を進めている。		
<b>【融合研究Bグループ】</b>			
テーマ	発災前、復興時の地域の合意形成に関する研究と、公共政策・財政政策研究の融合による、予防防災か減災復興かの選択のための判断基準モデルの検討		
領域	沿岸防災工学、認知心理学、環境社会学、地盤防災工学、地震リスク工学、海岸工学、小児看護学		
研究内容	発災前、復興時の地域の合意形成に関する研究と、公共政策・財政政策研究の融合による、予防防災か減災復興かの選択のための判断基準モデルの検討を行っている。一般的な社会基盤施設への適用の可能性も視野に入れながら、まずは産業施設の防災力（合意形成や災害対策へのモチベーション）向上に焦点をあて、自治体と連携した現地視察、技術支援、共同防災組織を活用した協議等を行っている。クラウドサーバーを活用したガイドラインの運用についても検討を進めている。		

【融合研究Cグループ】

テーマ	レスキューロボットや緊急通信技術等に代表される減災のための支援技術研究と事前の防災技術研究の融合による効率的な総合減災技術研究
領域	小児看護学、知能ロボティクス、社会心理学
研究内容	①情報発信＜災害前／災害発生時／災害後＞、②情報収集、③情報共有、の観点から情報共有モデルの構築を目指している。 熱中症や火災など身近な問題から取り上げ始め、自治体の対策＜情報発信、情報の送り手／受け手の関係＞を調査し、災害時における効果的な情報共有モデルへと発展させる。横浜市をはじめとする自治体へのヒアリングや意見交換等を通じた情報収集と共有、現状と課題の把握、社会実装可能な対応策の検討を進めている。 これまでの調査結果を踏まえた研究テーマにより、2020年度科学研究費助成事業 基盤研究(C)に採択された。

上記を中心とする研究成果は、本事業特設サイトや、新聞、雑誌等の各種メディアへの掲載、図書館学や看護学をはじめとする各学会誌への活動報告、本学の広報誌(研究報)の発行、自治体職員向け防災対策講演会、一般向けの特別公開講座、各種シンポジウムを開催するなど、多様な手段で各方面への情報発信、また成果の社会還元に努めてきた。

2018年度には、新聞社と連携し、防災・減災・復興学研究所開設キックオフシンポジウム「災害と復興のパラダイム展開」を開催し、心理学×民俗学×地方自治の観点からパネルディスカッションを行った。

第一部 プレゼンテーション

規矩大義 学長「防災・減災・復興学—関東学院大学の新たな挑戦—」

第二部 基調講演

小泉進次郎氏「『災い転じて福となす』～被災地で忘れられない言葉～」

第三部 パネルディスカッション

テーマ「マニュアルなき時代の災害対応とは～心理学・民俗学・地方自治～」

登壇者 中谷内一也氏、畑中章宏氏、鈴木正氏、規矩大義学長

事業成果

2019年度には、民俗学や文学といった視点から復興を考えることを目的として、「赤坂憲雄／吉増剛造 東日本大震災後10年に向けて」と題してシンポジウムを開催するなど、異分野融合研究としての「防災・減災・復興学」を発信してきた。

第一部 講演

赤坂憲雄氏「災間に生きる、芸術と技術のあわいに」

吉増剛造氏「手の響き、声の原景—石巻から」

第二部 対話

登壇者 赤坂憲雄氏、吉増剛造氏 / 司会 樋口良澄(国際文化学部客員教授)

関東学院大学  
10/27(土) 13:00-16:00  
パシフィコ横浜  
災害と復興のパラダイム転換  
規矩大義氏  
小泉進次郎氏

DMi 防災・減災・復興学研究所  
2020年2月29日(土) 13:00-16:30  
関東学院大学 関内メディアセンター  
東日本大震災後10年に向けて  
赤坂憲雄 / 吉増剛造  
第一部 講演 13:00-14:45  
赤坂憲雄 吉増剛造  
第二部 対話 15:00-16:30  
樋口良澄

また、2018年度、2019年度に年4回ずつ、一般向けの特別公開講座「命と希望を未来へ繋ぐために、私たちは何が出来るか～関東学院大学が提唱する新しい「防災・減災・復興学」～」を開講した。「防災・減災・復興学」をテーマに、自然科学だけではなく、社会科学、人文科学といった多岐にわたる分野で、最新の研究動向や身近な問題などについて、各分野の観点から分かりやすく解説した。

2018年度

- 第1回 規矩大義 学長(理工学部教授)「防災減災復興にかけている視点」
- 第2回 千錫烈 社会学部准教授「被災図書館の復興とコミュニティ」
- 第3回 鳥澤一晃 理工学部准教授「巨大地震を“正当にこわがる”」
- 第4回 細田聡 社会学部教授「“いざ”というときの心理学」

2019年度

- 第1回 施桂栄 副学長(人間共生学部教授)「災害・防災と人間の心理」
- 第2回 飯尾美沙 看護学部講師「日常生活・災害ストレスの対処」
- 第3回 北原武嗣 理工学部教授「巨大地震で街・構造物はどうなる？」
- 第4回 湯浅陽一 社会学部教授「災害への対応力と地域の強さ」

事業成果

関東学院大学 私立大学研究ブランディング事業 特別講座

特別講座

## 命と希望を未来へ繋ぐために、 私たちは何が出来るか

～関東学院大学が提唱する新しい「防災・減災・復興学」～

自然災害が多発する我が国では、国民の生命や財産を守るため、必然的に防災技術が進歩してきました。防災意識も高まって高く、自助・共助・公助の概念も定着しています。一方、東日本大震災に留まらず、想定外の大規模災害が発生する可能性は日々高まっています。防災・減災技術の更なる発展を促し、被害を軽減させることは当然ですが、発災後に生じる事態を市民に正確に伝えておくことも重要です。不幸にも被災した市民が復興する際には、新しい未来が開けていなければなりません。我々が提唱する防災・減災・復興学は、工学的な防災研究だけでなく、集学的研究によって、人々の暮らしや社会を守り、未来に希望を繋ぐ成果に挑戦します。

自然災害が多発する我が国では、国民の生命や財産を守るため、必然的に防災技術が進歩してきました。防災意識も高まって高く、自助・共助・公助の概念も定着しています。一方、東日本大震災に留まらず、想定外の大規模災害が発生する可能性は日々高まっています。防災・減災技術の更なる発展を促し、被害を軽減させることは当然ですが、発災後に生じる事態を市民に正確に伝えておくことも重要です。不幸にも被災した市民が復興する際には、新しい未来が開けていなければなりません。我々が提唱する防災・減災・復興学は、工学的な防災研究だけでなく、集学的研究によって、人々の暮らしや社会を守り、未来に希望を繋ぐ成果に挑戦します。

会場 KGU 関内メディアセンター 803 教室

時間 14:00～15:30

講座スケジュール

<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; font-weight: bold; text-align: center;">                     講座スケジュール 定員：各回100名（無料）                 </div> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p style="font-weight: bold; color: #0056b3;">11/17(土)</p> <p style="font-weight: bold; color: #0056b3;">防災減災復興にかけている視点</p> <p style="font-size: 8px; color: #0056b3;">規矩 大義 理工学部学長兼学長補佐、学長補佐、国際関係学部長、理工学部教授、防災学、防災工学、防災防災工学</p> </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p style="font-weight: bold; color: #0056b3;">11/24(土)</p> <p style="font-weight: bold; color: #0056b3;">被災図書館の復興とコミュニティ</p> <p style="font-size: 8px; color: #0056b3;">千錫 烈 社会学部准教授、研究分野：図書館学</p> </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p style="font-weight: bold; color: #0056b3;">12/8(土)</p> <p style="font-weight: bold; color: #0056b3;">巨大地震を“正当にこわがる”</p> <p style="font-size: 8px; color: #0056b3;">鳥澤 一晃 理工学部准教授、研究分野：都市防災学、防災工学</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p style="font-weight: bold; color: #0056b3;">12/22(土)</p> <p style="font-weight: bold; color: #0056b3;">“いざ”というときの心理学</p> <p style="font-size: 8px; color: #0056b3;">細田 聡 社会学部教授、研究分野：防災心理学、防災工学</p> </div> </div>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%; padding: 5px;"> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p style="font-weight: bold; color: #0056b3;">9月28日(土)</p> <p style="font-weight: bold; color: #0056b3;">災害・防災と人間の心理</p> <p style="font-size: 8px; color: #0056b3;">人間の心理や行動の発生を科学的に理解し、防災意識を高めます。 人間共生学部准教授、人間共生学部教授、看護学 研究分野：社会心理学、組織心理学</p> </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p style="font-weight: bold; color: #0056b3;">11月2日(土)</p> <p style="font-weight: bold; color: #0056b3;">日常生活・災害ストレスの対処</p> <p style="font-size: 8px; color: #0056b3;">日常生活や災害ストレスのマネジメントについて学びます。 本学看護学部専任講師、飯尾 美沙 研究分野：小児看護学、看護心理学</p> </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p style="font-weight: bold; color: #0056b3;">12月21日(土)</p> <p style="font-weight: bold; color: #0056b3;">巨大地震で街・構造物はどうなる？</p> <p style="font-size: 8px; color: #0056b3;">巨大地震に発生する揺れや土砂の崩れ、避難について考えます。 本学工学部教授、北原 武嗣 研究分野：防災工学、構造力学</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p style="font-weight: bold; color: #0056b3;">1月11日(土)</p> <p style="font-weight: bold; color: #0056b3;">災害への対応力と地域の強さ</p> <p style="font-size: 8px; color: #0056b3;">災害からの復興に向けて地域社会が果たす役割を考えます。 本学社会学部教授、湯浅 陽一 研究分野：環境社会学</p> </div> </td> <td style="width: 40%; padding: 5px; vertical-align: top;"> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">受講料 無料</p> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">定員 100名(各回)</p> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">時間 14:00～15:30</p> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">会場 KGU関内メディアセンター 803教室</p> <p style="font-size: 8px; color: #0056b3;">お問い合わせ 関東学院大学社会連携センター 045-796-7892(代表) 月～金：8:30～16:30 土曜日：8:30～12:30 開講日：日曜日、祝日</p> </td> </tr> </table>	<div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p style="font-weight: bold; color: #0056b3;">9月28日(土)</p> <p style="font-weight: bold; color: #0056b3;">災害・防災と人間の心理</p> <p style="font-size: 8px; color: #0056b3;">人間の心理や行動の発生を科学的に理解し、防災意識を高めます。 人間共生学部准教授、人間共生学部教授、看護学 研究分野：社会心理学、組織心理学</p> </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p style="font-weight: bold; color: #0056b3;">11月2日(土)</p> <p style="font-weight: bold; color: #0056b3;">日常生活・災害ストレスの対処</p> <p style="font-size: 8px; color: #0056b3;">日常生活や災害ストレスのマネジメントについて学びます。 本学看護学部専任講師、飯尾 美沙 研究分野：小児看護学、看護心理学</p> </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p style="font-weight: bold; color: #0056b3;">12月21日(土)</p> <p style="font-weight: bold; color: #0056b3;">巨大地震で街・構造物はどうなる？</p> <p style="font-size: 8px; color: #0056b3;">巨大地震に発生する揺れや土砂の崩れ、避難について考えます。 本学工学部教授、北原 武嗣 研究分野：防災工学、構造力学</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p style="font-weight: bold; color: #0056b3;">1月11日(土)</p> <p style="font-weight: bold; color: #0056b3;">災害への対応力と地域の強さ</p> <p style="font-size: 8px; color: #0056b3;">災害からの復興に向けて地域社会が果たす役割を考えます。 本学社会学部教授、湯浅 陽一 研究分野：環境社会学</p> </div>	<p style="text-align: center; font-weight: bold;">受講料 無料</p> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">定員 100名(各回)</p> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">時間 14:00～15:30</p> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">会場 KGU関内メディアセンター 803教室</p> <p style="font-size: 8px; color: #0056b3;">お問い合わせ 関東学院大学社会連携センター 045-796-7892(代表) 月～金：8:30～16:30 土曜日：8:30～12:30 開講日：日曜日、祝日</p>
<div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p style="font-weight: bold; color: #0056b3;">9月28日(土)</p> <p style="font-weight: bold; color: #0056b3;">災害・防災と人間の心理</p> <p style="font-size: 8px; color: #0056b3;">人間の心理や行動の発生を科学的に理解し、防災意識を高めます。 人間共生学部准教授、人間共生学部教授、看護学 研究分野：社会心理学、組織心理学</p> </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p style="font-weight: bold; color: #0056b3;">11月2日(土)</p> <p style="font-weight: bold; color: #0056b3;">日常生活・災害ストレスの対処</p> <p style="font-size: 8px; color: #0056b3;">日常生活や災害ストレスのマネジメントについて学びます。 本学看護学部専任講師、飯尾 美沙 研究分野：小児看護学、看護心理学</p> </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p style="font-weight: bold; color: #0056b3;">12月21日(土)</p> <p style="font-weight: bold; color: #0056b3;">巨大地震で街・構造物はどうなる？</p> <p style="font-size: 8px; color: #0056b3;">巨大地震に発生する揺れや土砂の崩れ、避難について考えます。 本学工学部教授、北原 武嗣 研究分野：防災工学、構造力学</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p style="font-weight: bold; color: #0056b3;">1月11日(土)</p> <p style="font-weight: bold; color: #0056b3;">災害への対応力と地域の強さ</p> <p style="font-size: 8px; color: #0056b3;">災害からの復興に向けて地域社会が果たす役割を考えます。 本学社会学部教授、湯浅 陽一 研究分野：環境社会学</p> </div>	<p style="text-align: center; font-weight: bold;">受講料 無料</p> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">定員 100名(各回)</p> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">時間 14:00～15:30</p> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">会場 KGU関内メディアセンター 803教室</p> <p style="font-size: 8px; color: #0056b3;">お問い合わせ 関東学院大学社会連携センター 045-796-7892(代表) 月～金：8:30～16:30 土曜日：8:30～12:30 開講日：日曜日、祝日</p>		

特別公開講座や各シンポジウムの参加者は、学生から70代以上まで幅広く、神奈川県のみならず関東全域、他の地区からの来場もあり、本テーマへの関心の高さが窺えた。アンケート結果から、参加者の満足度は平均90%と高く、「関東学院大学が有する幅広い能力(学問分野)をもって、防災・減災・復興学の発信ができるようお願いしたい」「大学の防災・減災・復興の活動に期待している」等の意見もあり、「防災・減災・復興学」研究における総合大学としての本学の強み・特色の発信の機会として、また、地域社会への知的啓発活動の一環として成果を上げている。

今後の事業成果の活用・展開

本事業により整備された本学のブランディング戦略や全学的な「防災・減災・復興学」研究の実施体制を基盤に、3つのテーマの融合研究のさらなる推進・発展を図る。科学的な意義のみならず、地域社会との協働のもと、研究活動を通じて、地域の防災・減災対策の促進に資する取り組みも積極的に展開している。研究成果の社会実装に向けた取り組みを強化することで、一方的な情報発信に留まらない市民参加型の事業など、本事業を中心とした社会連携の強化実績を教育へ展開し、本学のブランディング(校訓を体現した本学の研究教育活動の認知度)を高めていく。また、教員活動の成果を学内外に発信するための基本方針の策定およびそれに基づく体制整備を図る。

一例として、2019年度から神奈川県下の災害ボランティアネットワークと連携し準備を進めてきた「広域連携かながわ図上訓練」を計画している。また、3つのテーマの融合研究に加え、県立広島大学防災社会システム・デザインプロジェクト研究センターと連携し、マーケティングを利用した防災活動に係る新たな共同研究を予定している。また、これまでは研究成果の公表を外部・一般向けに行ってきたが、今後は「防災・減災・復興学」に関する授業を開講するなど、本学学生が「防災・減災・復興学」を理解、体感できる教育活動への展開を予定している。

4